

# 戦争よりも我々の選択する生き方に、この惑星の運命がかかっている

Greatchain

2018/5/08

戦争で人を殺すのは、この世で避けられないでしょう。それは悪である。しかし同じ悪でも、公衆の面前で堂々と戦って、決着をつける悪の方が、策を弄して世界を騙し、相手を悪人のように見せかけて殺す悪よりは、はるかに許せるであろう。後者は、エドワード・バーネイズという人物が考え出した“プロパガンダ”と呼ばれるもので、陰謀団と呼ばれる者たちが、中立公平を自称する新聞を利用して実践している、巧妙で悪辣な手段である。

どっちにしたって殺しは悪ではないか、という人があるかもしれない。そうではない。そういうことを言うのは、やはり、そういう馬鹿げた平等を宣伝する人たち、それに乗る人たちである。そもそも“悪を憎む”というとき、我々は果し合いのようなものを考えない。我々が考えるのは、刑法の問題でなく、人間がどこまで墮落できるか、どこまで卑劣になれるかである。そして、ここ数年の間に、その悪の極限にあるものが何であるかを知るようになった。我々は貴重な学習をすることになった。

先日も紹介した論文「イルミナティ理解のために」で、彼らの作戦として強調されていたのは、「目的は手段を正当化する」ということだった。確かにその通りのことが行われている。しかしこれはよく考えると、ちょっと不思議である。彼らの「目的」は、我々の目的を逆立ちさせた、神の創造の完成を妨害することだからである。信仰者の間に「神に嘉（よみ）せられる」という言い方がある。彼らの間には、「サタンに嘉せられる（気に入ってもらえる）」という考え方があに違いない。

やり方が、陰険で悪賢く、不健康で、卑劣であるほど、彼らの“神”には、嘉せられるのであろう。健全な者が最も反発する、腐ったやり方を、彼らは選んでいる。これが彼らの悪、つまり悪の本家の悪である。悪質プロパガンダ、ニセ旗、ワクチンの悪用、ペドフィリア、ケムトレール、すべてそうだ。こういったものは、ただの悪でなく、究極の悪であり、滅びの道を行くほかないと直感させるものである。問題は、我々自身に、彼らの騙しにはまらないだけの、見識あるいは抵抗力があるか否かである。

私自身もかつて、まだインターネット倫理というものが確立していなかったころ、純粋な中傷というべきものを、ネット上で受けたことがある。私は最初、確かに悩みはしたが、あまりにもその内容が、純粋な悪意だけによる、非現実的なものだったので、ほとんど何も思わなくなった。憎しみを返す気には全くなれなかった。それは、その人の人間の容量の小ささだけを感じさせるものだったから。今から思えば、それは私に与えられた貴重な教訓だった。

今、世界の権力者陰謀団と、我々の間に起こっていることは、ちょうどそれに似ている。確かに彼らの物理的権力は、依然として絶大ではあろうが、その内面は、空虚とも空疎とも言える。今、プーチンが受けている空虚な悪意、そこから彼が感じているものは、おそらく私の感じているものに近いであろう。私は彼らの悪を、「純粋悪」とも「絶対悪」とも呼んでいる。それは物理的にこの上なく恐ろしいが、同時にそれは、非現実的な、無力なものでもある。そのような悪に波長を合わせないプーチンのおかげで、第3次大戦は抑えられているとも言えるだろう——少なくともここまでは。

「プーチン：家庭の価値を破壊しようとする NWO を滅ぼすのは、私の義務」という論文 <http://www.dcsociety.org/2012/info2012/170831.pdf> を、読んでおられない方は、ぜひ読んでいただきたい。これは戦って滅ぼすという意味では全くない。現実には、最近、ロシアの新しく開発した兵器は、米-NATO のものより優秀で、プーチンが「私を無視せず、今度こそよく聞け」と言って、それをわざわざ西側に知らせたスピーチもあるが、彼は威張っているわけではない。

我々の中には、「そんなに兵器が優秀なら、悪い奴らをやっつけてくれ」と言うような、意識レベルの低い人たちもいるかもしれないが、それは、自分がどういう時代に生きているかを全く知らない人々である。なぜなら、今は、核兵器の使用不使・不使用などにかかわらず、そういう時代ではなくなったからである。(私は、核兵器は、使えなくなっていると考えている。 <http://www.dcsociety.org/2012/info2012/161028.pdf>) そういうことを知らせるために、今の世界的な不穏な情勢がある。つまり、そういう武力文明の終わりを知らせるために、この終末期の混乱が起こっている。そう考えなければならない。何かをここから覚らなければ、せっかくお膳立てされたこの時代に、生きている意味はない。

プーチンが「NWO を滅ぼすのは私の義務だ」と言っているのも、大言壮語しているわけではない。これは、我々一人ひとりに与えられた義務である。プーチンは、たまたま大国の大統領であるにすぎない。実を言えば、**NWO を我々が滅ぼす**と考えるべきでさえない。今、我々全員が協力して滅ぼさねばならないのは、我々自身の長年の文明である。NWO はその代表者にすぎず、彼らが際立ってその特徴を示しているにすぎない。

我々地球人は、先史時代から今日まで、他者を滅ぼし、その犠牲の上に繁栄を築くという文明形態をやめたことがない。これは、我々すべてが、生命的につながっているとされていることが、もし本当なら、馬鹿げた風習である。我々は皮膚によって互いに隔絶しているのだから、それぞれ別々の存在だという思い込みが、もし間違っているとしたら、我々は根本から不合理な、自分を必然的に不幸に導く生き方をしてきたことになる。これは来世(輪廻)のあるなしにかかわらず、カルマの法則を聞くか否かにかかわらず、簡単にわかる理屈である。そして今、そういう不幸な文明が、いよいよ終末を迎え、サイコパスと言われるような、特にその傾向の強い集団に、集中して現れるようになった。我々が彼らを滅ぼして、解決がつくのではない。彼らと我々は、ともに滅びるか、ともに救われるかの、どちらかである。そのような文明サイクルの観点に立って、我々は行動すべきではないだろうか？ 我々の生きる世界は、我々自身が創るのでなければならない。

——以上